令和元年度第１回鹿児島市総合教育会議　議事録

□開催年月日　令和年９月５日（木）　14 時 30 分　開会
15 時 30 分　閉会

□開催の場所　鹿児島市役所　本館２階特別会議室

□出席者

市　　長	森　博幸
教 育 長	杉元　羊一
教育委員	津曲　貞利
教育委員	桃木野　聡
教育委員	小栗　有子
教育委員	立元　千帆
（関係者）	
㈱フォーエバー代表取締役	久永　忠範
（事務局）	
企画財政局長	原　亮司
企画財政局企画部長	池田　哲也
企画財政局企画部参事（政策企画課長）	尾堂　昭二
企画財政局企画部政策企画課主幹	馬場　瑞樹
産業局雇用推進課長	永重　俊明
産業局産業創出課長	柳田　ひろみ
教育委員会管理部長	小倉　洋一
教育委員会教育部長	大脇　俊朗
教育委員会管理部参事（総務課長）	森﨑　浩文
教育委員会管理部総務課主幹	堀田　竜也
教育委員会学校教育課長	下江　嘉誉

□次　第

１．開　会

２．議　題

(1) 鹿児島市教育大綱の見直し方針及び修正案について

(2) 地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育の取組について

３．閉　会

□会議要旨

１．開会

（政策企画課主幹）

ただいまから、令和元年度第１回鹿児島市総合教育会議を開会いたします。

会の進行は、本会議の招集者でございます森市長にお願いいたします。

２．議　題

(1) 鹿児島市教育大綱の見直し方針及び修正案について

（森市長）

それでは、私の方で議事の進行を行います。

まず、（１）鹿児島市教育大綱の見直し方針及び修正案について、説明をお願いします。

（政策企画課長）

それでは、大綱の見直し方針及び修正案についてご説明いたします。

資料の１をお願いいたします。１．教育大綱の概要（１）策定の考え方でございますが、現行の教育大綱は、教育委員会が策定した鹿児島市教育振興基本計画に掲げた目指すべき教育の姿や視点、施策の方向性をベースに、本市が地方創生に対応していくための指針であるまち・ひと・しごと創生総合戦略の重点戦略のひとつである、大学との連携強化とふるさと教育の推進の考え方を加えて策定しております。

資料の次のページをお願いいたします。こちらは教育振興基本計画と教育大綱の関係を示したものでございます。桃色の点線で囲まれた部分が教育振興基本計画であり、青の点線で囲んでいる部分が教育大綱になります。左の方から大綱の基本目標、基本目標実現への考え方は、教育振興基本計画の目指すべき教育の姿、教育の取組における視点と同様であり、中ほどの基本方針とございますが、（１）から（５）は、教育振興基本計画の教育施策の方向性と同じであり、（６）の部分、赤の太線に囲まれた部分になりますけれども、地方創生の総合戦略を踏まえ、教育大綱に追加した部分でございます。

資料は戻っていただきまして、１枚目をお願いいたします。１の（２）対象期間でございますが、当時、国におきましては、地方公共団体の長の任期が４年であることなどから、４年から５年程度を想定されていたこと、また、本市の大綱に考え方を盛り込むこととしたまち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間が令和元年度までであることを踏まえ、平成２８年度から令和元年度までの４年間となっているところでございます。

２の大綱の見直し方針でございますが、（１）計画期間については、下の図にお示ししておりますように、大綱のベースである教育振興基本計画が令和３年度までであり、また総合戦略の計画期間について、第五次総合計画に合わせ、令和３年度まで延長する方針であることから、大綱の計画期間も令和３年度まで延長しようとするものでございます。

（２）内容の見直しでございますが、さきほどご説明いたしましたように、教育振興基本

計画に追加しております（６）生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む内容について、新たな要素等があれば追加することとしております。

資料の右側をお願いいたします。３．内容の修正案でございます。一番上の囲み部分が２７年度策定の現行の内容、矢印の下に修正案、その下に修正の理由を記載しております。修正の１点目、①ですが郷土の歴史や偉人等を学ぶとありますが、理由の①にありますように、平成３０年度に火山防災トップシティ構想を策定し、構想の取組の柱のひとつである次世代につなぐ火山防災教育において、児童・生徒を対象とした火山防災教育を推進することとしたことから、修正案にありますが、郷土の歴史や偉人とあるところに、桜島や錦江湾などの自然という表現を追加しております。

次に②でございます。学ぶことにつながる機会となる国内外との交流とありますが、理由のところの②、平成３０年度にネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略を策定し、基本戦略１、“アジアの日常化”の推進にあたっては、あらゆる世代がアジアの人々や文化に触れる機会を創出することとしており、未来を担う子どもたちや若者を主なターゲットとしていることから、修正案のところになりますが、アジアをはじめとする国外・国内との交流という表現に改めようとするものでございます。

③でございます。本市と協定を締結している大学、同じ行の後ろから次の行にかけまして、市内の６つの大学と連携しながら、というフレーズがございますが、これは大綱を策定いたしました２７年度の時点で市内の６つの大学すべてと協定を締結していなかったことから、言葉を使い分けておりますが、２８年度までに市内６つのすべての大学と連携協定を提携したことから、文言の整理を行おうとするものでございます。

４．今後の予定でございますが、来年２月第２回の総合教育会議において確認をいただき、大綱の改定を行う予定でございます。

説明は以上でございます。

（森市長）

大綱については、平成２７年度に、この総合教育会議の中で協議いただいて策定しましたが、計画期間が今年度までとなっておりますことから、ベースとなっている教育振興基本計画や地方創生総合戦略に合わせて、期間を延長するということです。

また、内容につきましても、新たな要素を加えた修正案の説明がありました。ただいまの説明について、何かご質疑はありませんか。

（津曲委員）

修正案の中で、②アジアをはじめとする国外・国内との交流と変えたことにつきまして、これまで国内を最初にもってきていた順番を変えたことを、そういう時代だとみるのか、国内及びアジアをはじめとする国外とするのか、国内さらにはアジアをはじめとする国外とするのがいいのか、国内を最初に持ってくるべきだと異を唱えるところではないですが、国内

が先がいいのかなと私見として思いました。意見でございまして、修正をかけるべきということではございません。

（小栗委員）

２つありまして、郷土の内容に自然が加わったことは、それ自体もそうですが、これまでの施策を反映するうえでも良かったというのが１つ、２つ目は小学校から高校までの各ステージでと指定されていますが、実際のねらいを考慮すればステージには大学も含まれているので、もうすこし幅を広くとれればと思います。

（教育長）

修正案の内容というよりも前提として１つ理解しておきたいところで、③の本市と協定を締結している６つの大学ということで、６つの大学に約１万６千人の学生さんがおられるわけですけれども、そのうち鹿児島大学さんが修士を入れて１万６００人くらいです。鹿児島大学自体が今、県外の占有率が６割というような状況でございますので、大綱の「生まれ育った本市の風土を愛し」という所については、前提として大学の中においては、県外の学生さんが多く鹿児島市に来られているということも今後、大綱をもとに事業を拡大するときには認識しておかなければならない要素かなということで申し上げたところでございます。

（森市長）

ありがとうございます。他にないですか。

今３人の委員の方々からご意見をいただきましたが、あえて文言を修正するということはないとのことでした。今後色々な事業を推進する中でご意見を踏まえながら対応していきたいと思います。

それでは、大綱の改訂等については、さきほど事務局から説明がありましたとおり進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（各委員）はい。

（森市長）

ありがとうございます。

(2) 地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育の取組について

（森市長）

それでは、次の議題に移ります。今回は「地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育の取組」という議題を設定しました。

株式会社フォーエバー代表取締役の久永忠範さんに、特別にご参加いただいておりますの

で、のちほどご意見を伺います。久永様には、席の移動をお願いいたします。
　それでは、この議題の趣旨等について、事務局より説明をお願いします。

（政策企画課長）
　本日の議題についてでございますが、本市が人口減少局面へ移行する中、若い世代の県外流出が進んでおり、若い世代の地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要となっております。
　そのため、「地方創生総合戦略」及び「鹿児島市教育大綱」においても、このことを柱の一つとして掲げ、取組を進めております。
　大綱の見直しを行うにあたり、今回「地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育」について、意見交換を行っていただくことで、さらに充実した取組につながるものと考え、今回の議題を設定したところでございます。以上でございます。

（森市長）
　それでは、「地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育」に関する本市の取組について、教育委員会と産業局からの説明をお願いします。

（学校教育課長）
　資料２をご覧ください。地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育の取組について説明いたします。まず、教育大綱におけるキャリア教育は、基本方針（６）に「生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育む」と、位置付けられており、その下の学習指導要領におきましては、「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようにすること」と位置付けられております。
　この職業観や勤労観などを育成する、いわゆるキャリア教育は、小・中・高等学校、それぞれの発達段階に応じた指導をすることとされており、資料中段の〇印で示してありますとおり、平成３０年度は、小・中・高等学校ともに１００％の実施率でございます。
　また、キャリア教育に係る、本市の主な事業は、個性あふれる学校づくり推進事業と、市立高校就職サポート事業がございます。
　次に、校種ごとの主な取組を説明いたします。小学校の主な取組としましては、（１）職場見学、（２）ものづくり、（３）農業体験、（４）交流活動です。それぞれの取組に関する実施校数や内容についてはご覧ください。なお、写真は、豆腐作り、大豆の収穫の様子でございます。
　中学校は、（１）職場体験学習、（２）講話学習です。実施校数や内容についてはご覧ください。また、写真は、左から、交通局・幼稚園における職場体験学習、講話学習の様子でご

ざいます。

高等学校は、（１）インターンシップ・職場体験学習、（２）講話学習、（３）市立高校就職サポート事業です。実施校数や内容についてはご覧ください。

今後も、地域に貢献する人材育成に向けて、キャリア教育に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

（森市長）

続けて、産業局からお願いします。

（雇用推進課長）

資料３をご覧ください。中学生をはじめとする若い世代を対象としました進学・就職応援フェアみらいワーク“かごしま”についてご説明いたします。

少子高齢化に伴いまして、全国的に働き手不足の傾向が顕著となっており、本市におきましても新規学卒者の県内就職率の減少傾向が続いておりますことから、若年層の地元定着について厳しい状況にあると言えます。

そのため、今年度から労働局や県と連携いたしまして中学生をはじめとした若い世代を対象に進学・就職応援フェアを開催いたします。県内のさまざまな企業や大学、専門学校などが出展を予定しておりますので、教育委員会とも連携を図りながら、より多くの生徒にご参加いただき、地元企業の魅力紹介や職業観の醸成に資する機会にしたいと考えているところございます。

イベントの概要等でございますが、開催日時は１２月１５日、日曜日１０時から１６時、場所はかごしま県民交流センターの２階と６階でございます。参加対象者は、中学生、高校生、短大・専門学校・大学生、保護者など、主な出展内容といたしましては、３７事業所による製品の展示や職業体験のブース設置、３８の学校と１１の関係機関による進学・就職相談のブース、講演会やトークセッションなどのイベント開催を予定しております。今後の主なスケジュールとしましては、１０月から１１月にかけて各学校等を中心とした周知・広報等を考えているところでございます。当課の説明は以上でございます。

（産業創出課長）

産業創出課におきましては、デザイン等のクリエイティブ産業の育成支援と集積促進に向けた取り組みといたしまして、本市の将来を担うクリエイティブ人材の育成と産業振興を図り、地域産業の競争力強化や若者等の雇用機会の拡大に努めております。

この取組の背景を少しご説明させていただきます。鹿児島市は豊富な農林水産資源を有しており、食料品や製造業の強みなどもございますが、商品・サービスの付加価値率が低い状況であることから、もっと稼げる鹿児島になるために付加価値率を向上させたいとの考えがございます。そのためには、ＩＴデザイナー、Ｗｅｂデザイナー、ＩＴ技術者・ディレクター、

新商品開発コンサルタントなどのクリエイティブ人材や産業を育成し活用するため、例えば素材の良さを生かした商品・サービスの企画、手にとってみたくなるデザインや商品の良さを知ってもらうための情報発信、生産性向上などを図ることが重要な要素であると考えております。

そこで資料の１から４にある取組を実施しております。具体的な取組内容としましては、１にございますようにソーホーかごしまとマークメイザンの２つの拠点施設を設置し運営しております。特にマークメイザンは黒い表紙の冊子をお配りしておりますが、クリエイティブ産業と人材を中心に支援しております。施設の概要等はのちほどご覧ください。

それから、２の起業・創業支援は、学生向けの起業セミナーを行っております。チラシに掲載してございますが、高校生以上が参加可能でございます。

３のクリエイティブ産業と人材の育成・支援では、今年で７回目であるかごしまデザインアワードを実施しております。こちらもチラシがございます。商品・パッケージなどの作品を年齢問わず募集しており、毎年高校生からも応募していただいております。

さらに４のクリエイティブ人材・企業の誘致と集積でございますが、首都圏に集中しているクリエイティブ人材や企業を鹿児島市へ誘致するため、鹿児島での働き方や住みやすさをＰＲするイベントなどを行っております。

これらの取組により、若者にとっても住みたい鹿児島、働きたい鹿児島となり、そこからまた地域に帰り、経済活性化に資する人材となることを期待しております。以上で産業局の説明を終わらせていただきます。

（森市長）

続けて、久永さんのご紹介を事務局からお願いします。

（政策企画課長）

それでは、久永様のご紹介をさせていただきます。

久永様は、鹿児島市のご出身で、平成８年に、ソフトウェア開発を手掛ける企業を立ち上げられ、その後、ＷＥＢサイトの構築やＩＴ研修などを取り入れるなど事業を拡大されております。最近では、社員が子育てをしながら安心して働ける環境整備にも取り組まれ、地域における雇用の創出はもとより、地域経済の活性化に貢献されており、本市の新産業創出研究会委員も務めていただいております。

本日は、ご自身の経験等から、若者の職業選択のひとつである起業の魅力や地域貢献できる人材育成に向けた取組などについてご意見をいただきたいと考えております。

（森市長）

それでは、久永さんからご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

（久永氏）

株式会社フォーエバーの久永でございます。本日はよろしくお願いいたします。

起業を通じた地域貢献・キャリア教育ということで私自身の今までの経験に基づいたお話をさせていただきます。なぜ起業をしたのか、起業してできる地域貢献とは何か、キャリア教育はなぜ今必要なのか、大きく３つについてお話をさせていただきたいと思います。

まず、１つ目のなぜ起業したかという点について、株式会社フォーエバーの社長をしておりますが、設立が１９９６年、２３年前になります。業務内容は、システム開発、ＷＥＢサイトの構築、ＩＴ研修、資格試験の実施などです。昨年、企業主導型の保育園も設立いたしまして、社員数は５３名です。

会社を作るまでの経緯として、若い頃、信州の八ヶ岳で小屋番をしておりまして、働くというかボランティア活動なんですけれども、２年半そこで働いた後、大学で勉強しようと鹿児島に戻って、家庭教師を始めました。それがうまくいきまして、生徒数が増えたことから、個別指導の学習塾を開きました。最初は生徒数が２０人くらいでしたが、１人でやっていたため、とても大変で、パソコンを活用して運営管理や生徒の指導管理、問題作成をする中で、その頃はマルチメディアと言ってましたが、これからはパソコンの時代ではないかと考えたことが、会社をおこした経緯になります。

２つ目の起業でできる地域貢献というのが何かと考えたときに、私はＩＴ分野ではないところからＩＴの会社を作りましたので、経験がなかったものですから、なかなか最初はうまくいかなくて、すごく葛藤がありました。

最初４人で会社を作りまして、４、５年は学習塾も経営しながら、一生懸命やっていたのですが、ちょうど２００１年に今のマークメイザン、ソフトプラザかごしまというのができることを聞いて、第一期生として入居させてもらいました。そこですごく良かったのは、ＩＴ分野とつながりのなかった自分たちが、そこに集まってきている地元企業や県外企業とつながったことで、仕事が広がったというのがあります。

ソフトプラザかごしまには入居期限がありまして、卒業して、次のステップは何かとなったときに、都会に行くといろんなビジネスがあるのですが、やっぱり自分たちは鹿児島の企業だから鹿児島を伸ばすことをしたいと考えました。「地域に密着して、地域を活性化する」というのを企業理念として、これは絶対に変えないで鹿児島で頑張ろうと決めました。

また、移転するときに、地元企業でも立地協定を結べるということを知って、立地協定を結ばせていただきました。これがすごく大きなブランドになって、色々なつながりが持てるようになり、ソフトプラザを卒業するとき１０人くらいだった社員が、協定を結んで２年目には２０人ほどに増えて、鹿児島中央駅の一番街に移転しました。

ＩＴ系の仕事ですが、農業、漁業、工業など全然違う分野のお客さんと仕事をさせていただく中で、色々な仕事を知ることができました。実際仕事を知らないとシステムは作れませんし、私自身はシステムを作っているわけではないので、自分の仕事に一生懸命になって他のことが見えなくなりがちですが、今回のキャリア教育ということについても、若いうちに

色んな事を知るのが刺激があっていいなと感じます。

地域で仕事をする中で、県内での売り上げが９８％、県外が２％くらいです。ここですごく大事なことは、地元の仕事は地元でこなしていくことだと思います。そうしないと仕事は増えないですし、雇用も生まれない。若い学生さんたちが都会に出ていくのもひとつの経験としてはいいことだと思いますが、地元企業が成長しないことには雇用も生まれないですし、収益が上がらなければ豊かにならないと感じています。ですから、地元に就職できるような人材育成ということもすごく大事であると考えまして、会社の研修部門で離職者訓練もやっています。ＩＴ分野だけでなくて、デザイン、簿記、会計、労務などを勉強しています。そこで感じるのは、若いうちはいいですが、４０代、５０代になって再就職をしようとするとなかなか難しいので、早いうちに職業選択ができたらいいということです。

地域貢献という部分では、会社の社会貢献活動としてＮＰＯを作りまして、小中学校でのインターネット安全教室、地域の情報発信をするホームページコンテスト、キッズプログラミングコンテストなどＩＴを活用して地域を活性化する取組を行っています。

３つめのキャリア教育がなぜ必要かということについて、私は小さい頃、父親に連れられて、畑や山で農作業をしたり木を切ったりしていました。その思い出があって、信州の山へ行ったというのがあるような気がします。若いうちに経験したことが自分の仕事の糧になるのではないかと思います。

３０数年前、長野の茅野市や諏訪市で、平日にもかかわらず子どもたちが畑にいるのを見て、なんでだろうと思っていましたら、長野県はその頃、農繁期休暇というのがあって、農作業が忙しいときは学校が休みで子どもたちが親の仕事を手伝うといのがあったらしいです。最近は、親の職業を知らない子どもたちも増えてきているのかなと感じますので、親子の間で職業経験を落とし込むということも大事かと思います。

私の子どもは３つ子で同じ環境で育ったのですが、３人とも全然違う道に進んでいます。ひとりの女の子は中学校時代、オーストラリアの日本語を全くしゃべれない家庭にホームステイさせました。その経験があったからか、国際的な仕事をしたいということで、大学もそういう選択をして、今１年生ですが、今週からインドネシアに行ってボランティア活動をしています。

あと２人男の子がいますが、１人は小さい頃よく病院に通っていて、心理学的な勉強をしたいということで今それを目指しています。もう１人は、小さい頃、山に連れて行ったときによく虫の観察をしていまして、今は絵を勉強したいとそういう道に進んでいます。

子どもの頃の体験というのがすごく人生の中で大きな糧になっているのかなというのは自分の子どもたちを見て感じています。私たちが小さい頃は友達の家に行くと、お菓子屋さん、自動車工場、色んな仕事をされているのを見ることがありましたが、今なかなかそういう経験がないのかなと思います。

私の会社で、中学校の職場体験なども受け入れていまして、男の子が一週間、職場体験でウェブサイトを作る体験をしたところ、ホームページというのは絵を貼りつけて、それが画

面に映ると思っていたが、こんなプログラミングからできているんだと感激して、帰って学校のホームページの更新をしてみたいという感想がありました。そこで経験したことが色んなことにつながっていくというのを感じました。専門学校や大学生もインターンシップで来ますが、１か月インターンシップをして、就職が決まっていたのに、断ってうちに就職した人もいました。

今どこの分野もそうですが、情報サービス業界は人手不足です。それを解消しようと取り組んでいるのが、有給のインターンシップです。私自身も大学に通っているのですが、研究室の学生たちを登録して、実際に仕事をしてもらい、鹿児島にもこういう仕事があるんだということを経験して地元の就職を促そうという試みです。学生たちもすごく真剣に取り組んでいて、４か月間のプロジェクトを学生１０人くらい、社員１人でこなしました。

実際に子どもたちが仕事を経験するというのはとても大事なのですが、なかなか機会がないです。都会に行くとキッザニアとか色んな職業体験をする所がありますが、仕事を知るために、どんなことがいいかなと考えたときに、ＩＴの会社ですから、鹿児島市の仕事館みたいなサイトを作って、各仕事の紹介などを映像で流して、こんな仕事があるよというのを子どもたちが観て、仕事を知るというのもおもしろいかなと思いました。昔、１３歳のハローワークという本がありましたけど、子どもたちはすぐパソコンが使えますので実際に鹿児島でやっている仕事を映像化して、それをもとに職場体験をする。そういうのもいいかなと思いました。自分がやりたい仕事、なりたい職業を考えるための環境づくり、そして、まず子どもたち自身が考えていくことが大事だと思っております。私からは以上です。

（森市長）

ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただきましたので、久永さんも交えて、意見交換に入りたいと思います。

まずは、教育委員の方々から、市の取組や久永さんのお話を聞いて、何かご意見や質疑はありませんか。

（桃木野委員）

貴重なお話ありがとうございました。久永社長が若い頃から色んな経験をされて、様々な仕事を知る中でＩＴではない所から参入されたということをお伺いして、やりたい事を始めるために一歩足を進めるというのが大事なのかなと思いました。

やはり、若い人たちが鹿児島から東京に出ていくのを止めるのは難しいかもしれないですが、鹿児島で起業するという視点から子どもたちに教育することも大事かと思いますので、久永さんのような方がもっと子どもたちにお話をしていただければいいのかなと思います。

最近、新聞等でもスタートアップの話がよく出てきます。今、東大を卒業した人というのは、昔のように官庁や大企業に就職しないで、起業して会社の社長になるというのが大きな流れだと聞いています。東大から銀行員になって、ミドリムシ培養の会社をおこした人とか

財務省に勤務しながら宇宙関連の会社をおこした人などいますが、それにはやりたい事を見つけないことにはできないと思います。そして、やりたい事が見つかれば、ネットワークがあれば、きっと会社はおこせると思います。久永社長のお話を聞いてそうだなあと思ったところです。

ちなみに、鹿児島でも出水に半導体のパーツを作る会社があって、その会社のパーツがないと世界のサプライチェーンが滞ってしまうような状況なんですけれども、いつスタートアップしたかというと平成１３年です。社長は私と同年代で、高校を中退して、出水市でバーテンダーをやりながら、バイクのレーサーをやっていまして、お金がないから自分でパーツを作って、ホンダに売り込みに行くと、いい製品だということで買ってくれるようになった。そこから、今や年商５０億の会社になったんですけれども、１０年で会社というのは大きくなれるんだというのを実感しています。そういった会社もあるんだというのをもっともっとアピールして、スタートアップを強調してはどうかと思います。

ちなみに今年、創志塾に講師として呼んでいただきましたけれども、スタートアップというのが大事なんだよということを中学生・高校生にお話させていただいたところです。久永社長のような方が創志塾のような所で子どもたちにお話をされると、夢を見つければ社長になれるのかなと思ってもらえるんじゃないかなと思いますので、協力していただけたらありがたいと思います。

（森市長）

久永さんから何かありませんか。

（久永氏）

志を高くするということ、自分で考えて物事を判断していく力が大切だと思います。自分で起業すると必ず判断しないといけないことがあります。うちの会社でもそうですが、組織に入ると誰かに委ねてしまうことがありますが、決断できる能力を身につけることがすごく大事で、その能力があれば色んなことができるんじゃないかと思います。

（小栗委員）

資料に教育委員会の取組がありますが、これから子どもたちが成長していく社会を考えたときに、働き方や職業そのものが随分変わりつつあります。そういった新しい時代に対応した内容が今後求められるのではないかと思います。

今回キャリア教育がテーマですけれども、仕事そのものがテーマではなくて、今働き方改革で、暮らし方のような、どういう風に仕事以外の時間を過ごしながら仕事ができるかというところの情報を一体化していかないと、子どもたちや住んでいる人たちに共有されて伝わっていかないのかなということを感じた次第です。

久永さんは、鹿児島で暮らされていて、仕事以外の生活で良かったと思われる点がありま

すでしょうか。

（久永氏）

鹿児島は暮らしやすく、人のつながりを大事にしているので、逆につながりがないとなかなか入っていけないというところがありますが、普段の生活の中では、仕事でつながってプライベートの仲間ができたりということもあります。

私自身が子どもと触れ合う時間が少なかったこともあって、会社に保育園を作りまして、社員がいつでも子どもと触れ合えたり、女性社員であれば、たまにはご主人が子どもを迎えにきて、会社を見てもらったりしています。生活と仕事をつなげて、一体化した形で仕事ができるような取組をしています。

（小栗委員）

地元に残りたいとか、人のつながりがあるということが、鹿児島に残って仕事をしようという選択につながると聞きます。職業も昔のようにただ農業だけではなく、多様な産業の組み合わせで稼ぎを得る働き方も生まれていて、産業創出課の報告にもみられたそういった新しい観点からも生き方の選択ができるというのが、キャリア教育の方向性として今後求められていくのではと思います。

（立元委員）

私自身も企業主導型保育園を開設しています。県外に出た子たちが鹿児島に戻る大きなきっかけになるのは、もちろん地元で働きたいというのもあるかもしれませんが、女性にとってやはり大きいのは子育てだと思います。仕事をしながら子育てをする人というのは、親の助けがなければ、なかなか難しい状況があるので、私自身は戻る選択肢としてそれが一番大きかったですし、周囲でも、長く関東で働いていたけれども、子どもを産んだことをきっかけに親元に戻る人が多いと感じています。それは、子育てを支援する環境がなかなか都会には整っていないからではないかと思っています。

鹿児島の強みとして、もちろん親元であるというのもそうですが、子育て支援を充実させるということが大事だと思っています。私も医療法人で女性を多く雇用している立場から、スタッフがいいバランスで働けて、働くことで子どもをちゃんと教育していないとか病気のときにみていないとか、後ろめたさを感じずにいられるような環境づくりと、誇りを持てるようなキャリア形成をさせてあげることを主にやってきていますので、そういう企業が増えるといいのかなと思っています。

もうひとつ、仕事を知る機会ということに関して、自分の娘が何の職業につきたいかというときに、私の仕事以外は何もわからない。学校で良かったと思うのは、職場体験学習でしたが、１つしか選べないんです。複数の選択肢があればということもあるので、さきほど久永さんがおっしゃったようにキッザニアのような企画、ドイツのミニ・ミュンヘンという小

学校高学年から中学生くらいまでが体験できる行政がやるキッザニアのようなものがありまして、今、日本でもいくつかの自治体がやっていますが、そういうものを鹿児島市でも地元産業が入って行えば、職業を知る機会になるのかなと思っているところです。

（津曲委員）

鹿児島で起業することについては、子育てなど社会的な環境、中心部との情報と交通をスピーディーに安価で提供するなどの外部環境も含めてありますが、教育という観点から起業人をどう育てるかということについて、やはり鹿児島で起業をする、戻ってくるのは、鹿児島が好きだから、課題を解決したい、鹿児島にメリットが何らかの形で見つけられるからというようなことだと思います。

１８歳までの間に当然教育体系の中で、英数国理社を勉強しないといけないんですけれども、地域の課題をどうやって感じてもらうかということをどれだけ入れるかだと思います。小・中・高校で体験学習や自然と触れ合う体験をたくさんやっておられますが、さらにこれからも促進していただかなければならないと思っています。

最近、興味深く聞いた話で、ニュートンからダーウィンに変わってきたという話があります。ニュートンは万有引力を見つけた人ですけれども、いわゆる公式というものを見つけるのがニュートンとするならば、ダーウィンは、その中で生存して成長していくところを見つけていくという考え方です。今まではビジネスでも成功モデルをどうやってつくるかというのが企業人としてとても大事でした。右肩上がりのときはそれなりの公式があるような気がするのですが、自由化の時代で厳しくなってくると、万有引力のような未来永劫の公式なんてない、むしろ生き残るために公式がどんどん変わっていく。ダーウィン型の人間じゃないとやっていけない、流動社会の中で変化に適応する対応力をきちんと持っている人材が必要だということです。

そうしたときに、英数国理社というのはロジカルな世界です。例えば環境やエネルギー、温暖化、ごみの問題など、公式のない世界でそういう課題解決能力というものは、これまではロジカルなものを構築したうえで解決しようとしていたんですけれども、１８歳までの間にそういった問題を提供して解決するような術を身につけることが大事だと思っています。地域の色んな課題を解決する人は、公式のないところで何かを見つけていくということですから、１８歳までの間にできるだけ外に出て、課題を見つけたり、魅力や愛着を感じたりすることが必要だと思います。

今、教育の中ではアクティブラーニングなど子どもたちに考えさせる授業を英数国理社でやろうとしているんですけれども、本来であれば、社会の課題を見つけるときにアクティブラーニングを適用していくべきではないかと。体験学習の中で、課題を自分なりに見つけたり、あるいは自分の魅力を見つけたり気づくということを提案していくべきだと思います。

かごしまデザインアワードの説明がありましたが、世界の企業家の考え方の中でも、デジタルシンキングからデザインシンキングへという流れがあります。今このマークメイザンで

やっているデザインというのが、デザインシンキングの分野に入っているかわかりませんが、地域をデザインする、私はこう考えるという思考法を地域教育の中で取り入れていく必要があると思います。デザインシンキングというのは、シリコンバレーなどで流行っているやり方ですけれども、決してそういう所から急に出てきた考え方ではなくて、地方から発想を豊かにして、自分から気づいていく教育というのをじっくり考えてみたらどうかと思います。自然に触れる、学ぶというのではなくて、自然の中で気づく、地域の問題に対して自分なりの課題を見つけるという活動の中で、魅力ある鹿児島にしようという気持ちを子どものうちから育んでいけるといいと思います。

（森市長）

ありがとうございました。各委員の皆さまから大変貴重なご意見をいただきました。津曲委員からもありましたとおり、課題を見つける、気づくことが大事だということでした。体験だけでなく、自らが挑戦するような意識改革も必要ではないかというご意見をいただきましたので、今後とも教育行政、産業局、他の分野の方々とも協力しながら検討していかなければと感じたところです。

（森市長）

それでは、時間が参りましたので、意見交換はここまでとさせていただきたいと思います。

久永さんには大変お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。

皆さんからいただいたご意見は、市長事務部局と教育委員会の双方で事業実施にあたっての参考とさせていただきます。

３．閉　会

（森市長）

それでは、本日の会議はこれで終了いたします。ご協議ありがとうございました。

【以上】